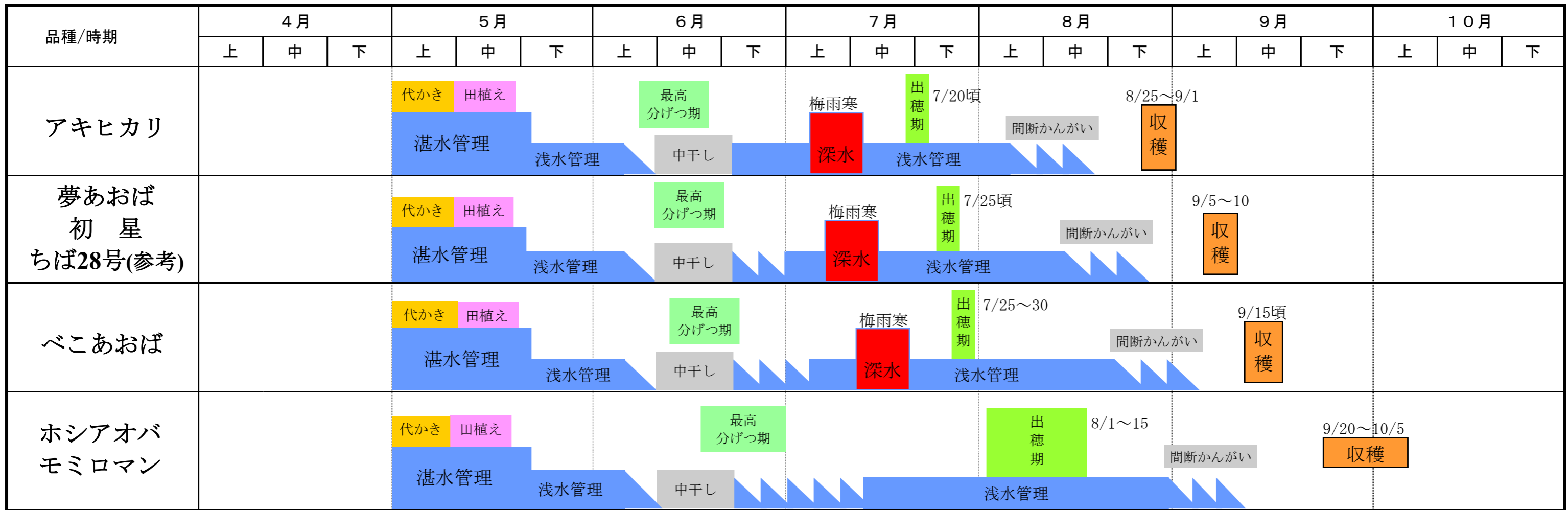


飼料用米品種の栽培暦

※出穂期及び収穫適期は香取市のデータを用いた。



注) 粳米のまま、もしくは粳がらを含めて出荷する場合、飼料用米に対する安全性が確認されていない農薬は、出穂（出穂始め）以降の散布が行えないので注意しましょう。

育苗

◆播種量

- ・種籾が大きい品種は、播種重量を多くしてください。

品種名	播種重量の目安(g/箱)	玄米千粒重(g)
べこあおば, ホシアオバ	190	29~30
ちば28号(参考) 夢あおば, モミロマン	150~160	23~25
アキヒカリ, 初星	130~140	20~22

◆種子消毒

- ・家畜への安全性が確認されている薬剤で消毒しましょう。

◆浸種

- ※浸種は水温10~15℃で、積算温度120℃を目安に行う。(水温10℃未満での浸種は、発芽不良の原因となります。)

◆育苗管理

- ・飼料用米専用品種は低温にやや弱い特徴があります。
- ・好天が続く予報の日に播種し、日中は葉が焼けないように換気し、夜間は被覆を追加する等、保温に努めてください。

施肥

- ・家畜ふん堆肥の連用により土づくりを進めましょう。以下は、家畜ふん堆肥を2 t/10 a 連用した水田の施肥量です。

- ◆基肥(砂壤土条件) ※壤土条件では以下より20~25%減肥。
「初星」 窒素成分で、4 k g / 1 0 a

- ◆その他の品種 窒素成分で、9 k g / 1 0 a
・堆肥を散布したほ場は、りん酸・加里が補給されているので、単肥(塩安など)だけの施用で十分です。(堆肥を施用しない場合は、りん酸・加里を含む肥料を施用して下さい。)

窒素成分：3 k g / 1 0 a

◆追肥

- 施用時期 ※最高分げつ期の葉色が濃い場合は出穂前30~20日
葉色が低下した場合は出穂前50~30日

田植え

◆栽植密度

※飼料用米専用品種は穂数が少ないので疎植は避ける!

- ・飼料用米専用品種 50株/坪(株間22cm)~55株/坪(株間20cm)
- ・「アキヒカリ」「初星」55株/坪(株間20cm)~60株/坪(株間18cm)
- ・植え付け本数 3~5本/株

◆植え付け時期 ※冷害回避のため田植えは5月中旬以降に!

- ・7月下旬までに収穫する品種は冷害の被害を受けやすい。
- ・晩生品種は、用水が確保できる水田に作付けしてください。

梅雨寒時の水管理

- ・7月中に出穂期する品種では、冷害による減収を軽減するため、幼穂形成期~穂ばらみ期に低温が予想されるときは深水で管理し、保温に努めてください。

雑草防除

- ・水稻用に登録されている除草剤を使用し、使用基準を順守してください。
- ・「モミロマン」では、薬害が発生するため、ベンゾビスクロン、テフリルトリオン、メソトリオンを含む除草剤は使えません。
- ・農薬の使用については、お近くの農業事務所等指導機関にご照会ください。

病虫害防除

- ・苗立枯病等の防除のため、種子消毒、育苗用土及び育苗箱消毒を行います。
- ・予察情報と発生状況に注意し、収量や飼料品質の低下や、周辺圃場に影響を及ぼす危険が予想される場合は薬剤防除を行います。
- ・水稻用に登録されている殺虫・殺菌剤を使用することができますが、原則、出穂始め以降に農薬を散布した場合は玄米で出荷します。粳米のまま、または粳がらを含めて出荷する場合は出穂以降の農薬散布は行えません。
- ・但し、安全性が確認された農薬については、出穂始め以降の散布が認められているので最新情報を確認してください。
- ・なお、糊熟期から黄熟期に早刈りし、粳米だけを利用するソフトグレインサイレージ(SGS)では、出穂始め以降の農薬散布は一切行えません。
- ・商品名が同じでも剤形(粒剤,乳剤等)が違っていると使用できない場合があります。
- ・農薬の使用については、お近くの農業事務所等指導機関にご照会ください。